

# パワフルUP

調布市立杉森小学校  
校長 清水 吏  
第4学年 学年便りNO.13  
令和2年3月4日(火)

## 思いをつなぐ



突然の休校措置から5日が経ちました。連日の報道を受け、心配を募らせている方や先行きの見えない不安を抱えている方が多くいらっしゃるものと推察いたします。学校も、前例のない事態に手探りで「私たちに今できることは何か。」を日々考え話し合っているところです。正直なところ、まだまだはっきりしていないことも多く、私たちにできることの無力さを痛感することが度々あります。ですが、今だからこそ前を向きたい。そのような思いで臨時の学年だよりを作成しました。今まで「考えて学ぶ」を続けてきた子供たち。このような状況だからこそ、自分自身のことをじっくり見つめ、5年生に向けて少しでも希望をもって進級してもらいたいです。その一助となるよう、我々教員も今の状況下でできることを考えていきます。まずは、私たちの今の思いを伝えさせていただきます。少しでも皆さんとつながっていたい。それが私たち学年一同の願いです。

突然の終わりから数日が経ちました。

私も子供たちがどのように過ごしているのか、考えながら毎日を過ごしています。

3学期最大の行事であった、Toward2030を大成功で終えることができ、子供たちの晴れ晴れとした姿を見て、「後悔などあろうはずがない。」という気持ちでいます。

しかし、次の日に、突然の終わりが告げられ、子供たちも驚きと戸惑いを感じている様子でした。私たちも、その日一日、子供たちのために何ができるか考え、最後に学年集会を開きました。この2年間を振り返ったり、Toward2030の感想を発表したり、今思っていることを伝え合いました。自分たちの成長を感じ、満足した表情をしている子供たちばかりでした。私も感動で胸がいっぱいになったと同時に、新しい学年でもきっと大きな力を発揮してくれるだろうと確信しました。

このような事態になったことは悔しく思いますが、この2年間やってきたことを思い出し、自分たちができることを考え、また一つ成長した姿で次に会えることを願いたいと思います。何かお困りの際は、遠慮せず、ご連絡ください。 1組担任 今井 光代

先週の金曜日の突然のお別れ。私自身も驚きました。その時、子供達に伝えたことは、「当たり前だと思っていたことは当たり前ではない。」ということ。当たり前前の日常がいきなりなくなることもあることを私も実感しました。これからの予測困難な時代には、色んなことが起こると思います。そんな時こそ、「みんなで力を合わせて」「クリエイティブ」に考えて、困難を乗り越える力をつけてほしいと伝えました。今、子供達は、どんな気持ちで何をしているのでしょうか。時間があるからこそできること、こんな時だからこそできることを考えてほしいと願っています。やらさせる学習ではなく、「やってみたいことにチャレンジして、この期間を有意義な時間にするぞ!」「ピンチをチャンスに!」そんな気概でいれる子供達であってほしいです。どんな学びをして、5年生に向けてどんな準備をしたのか、そんな話を次に会った時に聞けたら嬉しいです。また、保護者の皆様もどうしたらいいのか不安なこともたくさんあると思います。心配なことがありましたら、遠慮なくお伝えください。

2組担任 染谷 恭平

28日に突然最後を知った子供たち。みんな泣きました。悲しみと不安と悔しさと…いろいろな感情がありました。私も同じ気持ちでした。前日の保護者会で、4年生の残り1か月で、今まで学んできたことを点で終わらせず線でつなげていけるようにしたいとお話したばかり…。あっけなく終わりを迎え、無念な気持ちを捨てきれずにいました。しかし、これではいけない。そう思いました。残された短い時間の中でも、子供たちにとって何か希望の見える終わり方にしたい。それは、学年担任一同、同じ気持ちでした。なので、急遽学年集会を開きました。そして、1年間の振り返りを子供たちと行いました。子供たちは我々の想像を超え、ずっとずっと前向きでした。勇気をもって語る子に、真剣な眼差しで聞く子供たち。声を詰まらせた子には「大丈夫だよ。」と自然に助ける声が上がりました。今まで学んできたことが子供たちの中にしっかりと根付き、線につながっていると感じた瞬間でした。子供たちの成長を2年間、そばで見届けられたことに幸せを感じた瞬間でもありました。

保護者の皆様におかれましては心配なことばかりだと思います。何かありましたら、遠慮なくお知らせください。皆様が健康で一刻も早く事態が終息することを願っております。

3組担任 高橋 尚子

